

ヒツジ襲う大型犬、マナー違反も続発…

六甲山牧場 ペットお断り

来月から入場全面禁止

六甲山牧場（神戸市灘区六甲山町）が3月1日からペットの入場を全面禁止にする。原因は飼い主のマナーの悪化。ここ数年、リード（引き綱）を外した大型犬などにヒツジや牧羊犬がかまれるトラブルが後を絶たなかったという。同牧場は「動物の安全が第一なのでやむを得ない」としている。

（阿部江利）

同牧場は1956年にウシとヒツジの放牧を始め、76年から一般公開。現在、東京ドーム五つ分（約23畝）を観光牧場とし、約150頭のヒツジをはじめ、ウシ、ヤギ、ウマなどを飼育している。ペットの同伴を禁じる施設が多い中、同牧場は、牧羊犬が活動しないほぼ半分のエリアで、リードを付ける▽

動物と接触しない▽ふんの後始末をする▽などの条件で持ち込みを認めている。入場する人の1〜2割がペットを連れてくるという。ところが、綱を外して犬をフライングディスクで遊ばせたり、進入禁止エリアに入ったりする飼い主が増加。動物がかまれるケースが年5、6件起きるようになったという。

また「犬が怖い」「ほえられた」といった苦情も2013年までは20件前後だったが、14年は49件に急増。ふんの放置も増え、連休後は職員総出で掃除が必要になっていた。

さらに、ペットの多様化によりヤギやミニブタを連れて来る人も現れ、口蹄疫などの伝染病の恐れも高くなることから、ヒツジが出産を迎える3月を前にペット禁止を決めた。

6カ月の長女と訪れた芦屋市の男性（27）は「ペットがいる人は一緒に来たいかもしれないが、動物がけがをしているのなら仕方ないのでは」と話していた。



●3月1日からのペット入場禁止を伝える張り紙（耳を裂かれたヒツジ（いずれも六甲山牧場提供））

